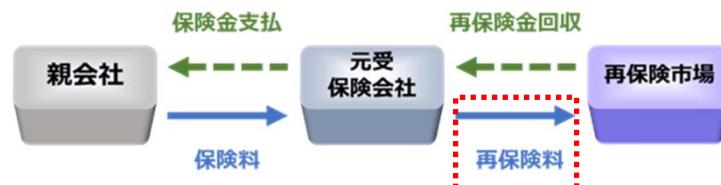


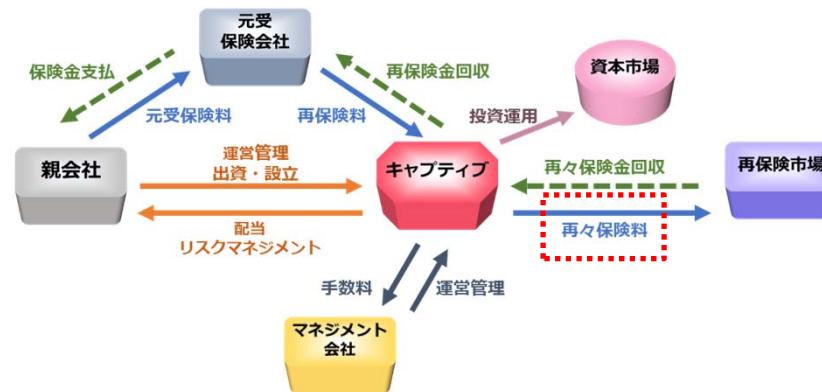
# キャプティブのメリット(その1)

保険商品による対応が難しいリスクへの対応を容易にすることができます。

## 従来型の保険を使ったリスク対策



## キャプティブを活用したリスク対策



- ✓ キャプティブを作つてみずから保険会社となってリスクの引受けが可能
- ✓ キャプティブを作ることでみずから“仕入れ”が可能。 **赤枠**は保険会社の“仕入れ”部分

## メリット

元受保険会社では引受けが難しいリスク<sup>(注)</sup>、掛金が高額なリスクの一部を自分で引き受けること(自家保険)で、保険内容の充実やコストの削減ができる。

再保険市場から直接仕入れることで、価格や商品内容に対する選択肢を広げることができる。元受会社への交渉力強化という付随効果も。

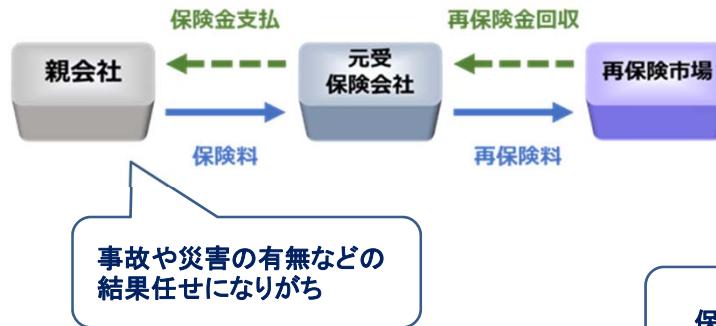
(注)元受保険会社では引受けが難しいリスク

特殊性が高く、売り手(保険会社)と買い手(契約者)の情報が公平ではない可能性のあるリスク、信頼できる統計データがなく評価が困難な新しいリスク、発生頻度は低いが発生すると損害が広域にわたるような巨大リスク。例えばリコール、環境汚染、医療・監査といった職業賠償責任リスクなど。

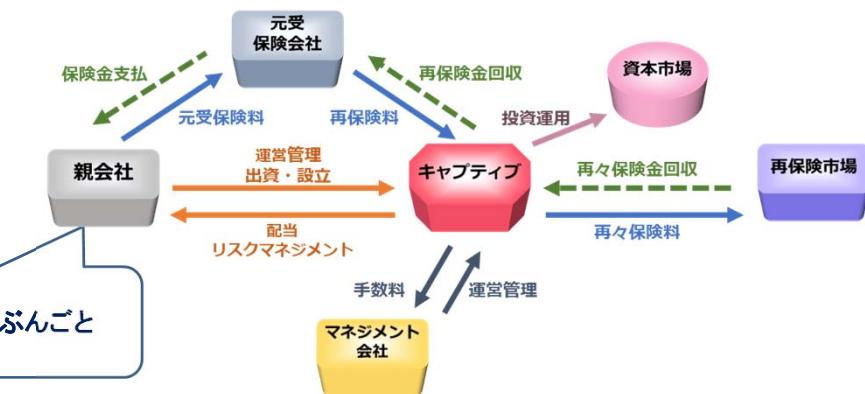
## キャプティブのメリット(その2)

企業内のリスクマネジメントへの関心の向上が期待ができます。

### 従来型の保険を使ったリスク対策



### キャプティブを活用したリスク対策



- ✓ 自社のリスクを直接保有。キャプティブの成績はいわば“自己責任”
- ✓ 様々な情報を自社で管理

メリット

企業の中にリスクマネジメントへの意識を醸成することができる。

一元化された企業リスクの分析が可能になる。

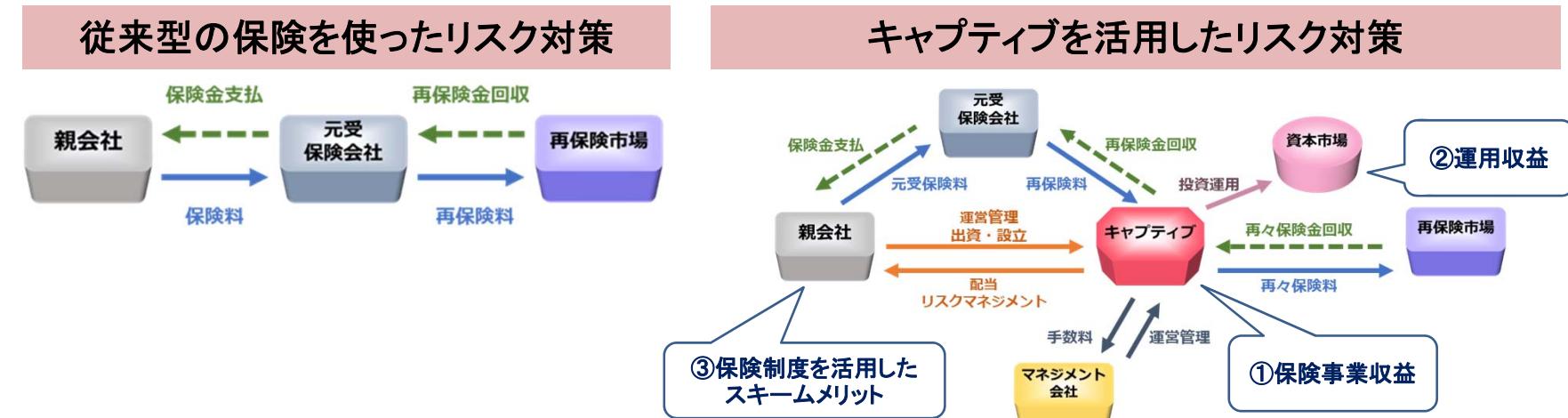
リスクマネジメントに関する企業内啓蒙活動が活性化される。

ロス防止活動に関する研究、開発が促進される。

リスクマネジメント分野の人材育成が可能となる。

# キャプティブのメリット(その3)

経済効果が期待できます。



- ✓ グループに保険会社を持つことで“保険事業収益” “運用収益” の享受を期待
- ✓ 保険制度の活用を通じたスキームメリットの享受を期待

メリット	①保険事業収益	保険金支払額が少なく済んだ場合、保険事業収益が得られる。
	②運用収益	キャプティブ内の資金(資本金や責任準備金、支払備金)からの運用収益が期待できる。
	③保険制度の活用	親会社が自社内に保有する積立金は課税対象、キャプティブ内に積み立てる準備金は一定範囲で非課税。親会社の支払う元受保険料は損金処理できる。